

2025 年度

上宮高等学校

入 学 考 査 問 題

国

語

- (注意) ① 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
② 字数の指定がある設問は、句読点やカッコもすべて一字に数えること。
③ 問題の作成の都合上、本文の表現などを一部変更しています。

| 受 驗 番 号 | 名 前 |
|---------|-----|
| | |

— 次の文章を読んで、後の問い合わせに答えなさい。

幼い頃は、親は自分を包む大きな存在であり、言つてみれば絶対的存在だった。^(b)ところが、中学生にもなれば、親の偶像がクズれる。親も不動の心をもつ頼れる存在などではなく、常に揺れ動いてることに気づく。自分のことは何でもお見通しというわけではないこともわかる。

親を偶像視することがなくなり、ただの人間とみなすようになる頃^(c)痛切に感じるのが親と自分の価値観や感受性の違いだ。
^①親の言うことがどうにも納得できなくて、

「そんなのおかしいじゃないか！」

とイライラする。

自分の言い分がどうしても親に通じず、

「なんでわかつてくれないんだ！」

とイライラする。

そんなことがしばしばあるため、親のことを鬱陶しく感じるようになる。^(f)

親の言うことが当たつてもイライラする。自分のためを思つて言つてくれているのだと頭ではわかついても、

「いちいちうるさいな」

「そんなこと、言われなくともわかつてるよ」

などと言いたくなる。

このようにちよつとした親の言葉や態度にいちいちイライラするのは、「自分」ができかけている証拠と言える。

いちいち反発する自分を発見し、自分はどこかおかしくなってしまったのではないかとナガ⁽ⁱ⁾ヤむ人もいるが、心配することはない。^(h)自分が順調に育つているからこそ、親の言葉や態度にイライラするようになるのである。

小学生の頃は、

「いつまでゲームやつてるの！ 宿題やつたの？」

などと親から言われて、

「今、やろうと思つてたのに、いちいちうるさいな」

などと反発することはあっても、何かと親に頼り、手伝つてもらつたりアドバイスをしてもらつたりするのをありがたく思うことが多かつたはずだ。と

ころが、中学生くらいになると、親に何か言われるたびに鬱陶しく感じ、反発したくなる。

□ A 反抗期になつたのだ。親からすれば、子どものためを思つて言つて言つているのに、なんでわからないんだと言いたくもなるだろうが、心の発達と

いう観点からすれば、これは □ B 歓迎すべきことなのである。

「親と価値観が合わないから、言われることすべてが納得いかない」

という人もいるが、それは親の価値観とは異なる自分なりの価値観ができつつあることを

□ C 示している。

「親の言うとおりにすればうまくいくかも知れないけど、それはどうしても抵抗があるんです。自分の思うようにやつてみたいんです」

という人もいるが、それは心の中に主体性が育つてきていくことのあらわれと言える。

評論家の亀井勝一郎は、少年時代を振り返つて、つぎのように記している。

「人に隠れて、ひとり考え方をする。——考えることは、すでに何ものかから己を隠すことであるらしい。」（亀井勝一郎「我が精神の遍歴」『亀井勝

一郎全集』講談社 所収）

□ D 行動は外から観察可能だが、心の中で何を考えているかは外からはわからない。反抗的な態度や言葉は親にあからさまに伝わってしまうが、

心の中で反抗していても親に即座に見透かされることはない。

④ ニンチ能力の発達により、抽象的思考が活発に動き出す青年期には、親にも窺い知れない自分独自の世界ができるのだ。だから、青年期に突入した

(a) 用途

子をもつ親は、「ウチの子は、この頃、何を考えてるんだか、さっぱりわからない」などと言うわけだ。自分にはコントロールできない存在になりつつあるわが子との間に、見えない壁があるのを感じるのだろう。

そんな親子の間で起こっていることについて、亀井はつぎのよう⁽¹⁾にゲンキュウしている。

「専制的な権力は、考える人を極度に警戒するが、すべて政治的なるものは、考え深くあることに対し⁽²⁾フダンの危惧を抱いているようにみうけられる。むろん少年の僕がこんな感想をもつたのではない。少年にとつて最も身近な専制的権力とは、家族である。考えるということは、まず家族に対する反逆であり、肉親の不満をかう。⁽³⁾これを薄々感じはじめたのである。人間に孤独感を抱かせる最初のものは家族であり、家族への呪いが起る。この経験のない精神はおそらくない。」（前掲書）

今どきの親は、「ほめて育てる」とか「叱らない子育て」といった標語に惑わされ、子どもに対してやたらと迎合することがあり、そのような親に接する者は、とくに反抗すべき対象として親を意識することはないかも知れない。

だが、自分の考え方をリフジンに押しつけてくる親ではなくても、こちらが何を考えているのかわからず腫れ物に触るようにして^(b)いる親であつても、そんな親の言葉や態度を鬱陶しく感じる。それが一般的な青年期の感受性なのではないだろうか。

だが、自分の考え方をリフジンに押しつけてくる親ではなくても、こちらが何を考えているのかわからず腫れ物に触るようにしている親であつても、そんな親の言葉や態度を鬱陶しく感じる。それが一般的な青年期の感受性なのではないだろうか。
生きがいや人生の意味についての探求で知られる精神科医神谷美恵子は、反抗期について、つぎのように述べている。
「親や教師にとつては頭の痛いことだが、反抗期を経ずに成長することは、必ずしもよろこぶべきことではない。^④あまりにも素直に育つてしまつた青年は、^⑤

「親や教師にとつては頭の痛いことだが、反抗期を経ずに成長することは、必ずしもよろこぶべきことではない。^④あまりにも素直に育つてしまつた青年は、それだけひ弱い大人、あるいは個性のない大人になる可能性がある。」（神谷美恵子『人間をみつめて』河出書房新社）

「(前略) 私が言いたいのは、反抗期がつよく現れるような子どもや青年は、あとでしつかり者になる確率が大きい、ということである。」(同)

結局、反抗というのは、親の言いなりになることに抵抗を示し、自分の思うようにしたいと自己主張すること、つまり自分の意思を押し通そうとする」とある。

したがって、反抗しない者には押し通すような意思がないことになる。自分なりの考えをしつかりもつていないため、親の言いなりで平気なのである。その方が間違いがなく楽だ^⑤という者もいるが、それは自分というものがまだ育つていらない証拠とも言える。

反抗というと、親に対して怒鳴るように言い返したりするなど、激しいやりとりを連想するかもしれない。たしかに親と怒鳴り合つたり、取つ組み合いになつたりするような激しい反抗をしたという者もいる。だが、多くの場合、そこまで激しいものではなく、もつと間接的な反抗の形を取るものである。

僕の場合も、「うるさいなあ」と言うようなことはあつても、あからさまに親に激しく反抗した覚えはない。ただ、小学校高学年の頃から、^⑥親に対して秘密をもつようになつた。

たとえば、友だちとどこで何をして遊んだのかを言わなくなつた。親が子どもにはわからない□Yの世界を生きるようになつた。もちろん学校の世界のことでもほとんど話さなくなつた。

また、数人の友だちと秘密基地をもつようになつた。もちろん学校の世界のことでもほとんど話さなくなつた。大きな鉄筋コンクリートのアパートの土台部分の空間の片隅だ。一階の住宅のベランダの下の四角い小さな穴の鉄柵を外して潜り込むと、薄暗くて広い空間が広がつていて、その片隅にジンチをつくり、宝物を持ち寄つた。宝物といつても、大人からすればただのがらくただ。だが、そこはワクワクする場所だつた。三人の仲間しか知らない僕たちの秘密基地だつた。

家族心理学では、親と子の間に世代間境界を設定することが大切だと言われる。親に対して秘密をもつことは、世代間境界の設定とも言える。

たとえば、母子密着の場合は、母親も子どももお互いに対して秘密をもたず、何でもあけすけに話すため、世代間境界がないのである。秘密をもつことによって、親の侵入を許さない自分の領域を確保することができ、親から心理的に分離独立した存在になつていく。それは心理的自立の典型的な道筋である。

健全な親子関係においては、世代間境界がはつきりとしているものであり、子どもが親に対して秘密をもつようになるのは当然のことであり、心が順調に発達していることの証拠とも言える。

ゆえに、親に秘密をもつようになつたからといって、自分は悪い子だと自分を責める必要はない。頼もしい大人への道を歩み始めたのだ。

（榎本博明『「さみしさ」の力』による）

（注）窺い知れない……見当をつけることができない。

問一 線部ア～クの、カタカナは漢字に直し、漢字はその読みをひらがなで、それぞれ答えなさい。

問二 線部a～hの語の品詞名を、次のア～コの中からそれぞれ一つずつ選んで、記号で答えなさい。

| | | | | | | | | | |
|---|-----|---|-----|---|-----|---|------|---|----|
| ア | 名詞 | イ | 動詞 | ウ | 形容詞 | エ | 形容動詞 | オ | 副詞 |
| 力 | 連体詞 | キ | 接続詞 | ク | 感動詞 | ケ | 助動詞 | コ | 助詞 |

問三 A ～ D

に入る語句として最も適当なものを、次のア～オの中からそれぞれ一つずつ選んで、記号で答えなさい。
ア 暗に イ むしろ ウ いわゆる エ ところが オ たしかに

問四 線部(a)・(b)の文中での意味として最も適当なものを、次のア～オの中からそれぞれ一つずつ選んで、記号で答えなさい。

ア 大したことないと軽視されてしまう

イ 隠していたことも看破されてしまう

ウ 底の浅い意見だと反論されてしまう

エ 人の内面が勝手に解釈されてしまう

オ 将来の展望などが予想されてしまう

ア あまり関わらないようにしながら、様子を見守るさま

イ 危険な目にあわないよう、遠くから働きかけるさま

ウ 機嫌を損なわないよう、恐る恐る接するさま

エ 不用意に関わることをせず、よく考えて対処するさま

オ たとえ拒絕されたとしても、真心を込めて向き合うさま

問五 線部①「親の言うことがどうにも納得できなくて」と筆者が考えたのはなぜですか。「～から」に続くように文中から二十五字で抜き出し、始めと終わりの三字を答えなさい。

問六 線部②「専制」とありますが、子どもに対する親の態度として、「専制」とは対照的な語句を、文中から漢字二字で抜き出して答えなさい。

問七 線部③「これ」とは何を指していますか。その内容の要点が示されている一文を、文中から抜き出し、始めの五字を答えなさい。

問八 線部④「あまりにも素直に育つてしまつた青年は、それだけひ弱い大人、あるいは個性のない大人になる」とありますが、それはなぜですか。

文中の語句を使って、三十字以内で答えなさい。

問九 線部⑤「と」と同じ使い方をしている「と」を、次のア～オの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 友だちと図書館に行く。 イ 雲がゆっくりと流れる。 ウ 雨がやむと星が見えた。

エ 彼も参加すると言つた。 オ あなたとは立場が違う。

問十 線部⑥「親に対し秘密をもつようになつた」とありますが、「親に対し秘密をもつ」とについて、筆者が考える意義はどのようなことですか。文中の語句を使って、七十字以内で答えなさい。

問十一 □・□に当てはまる語句の組み合わせとして最も適当なものを、次のア～オの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア X 仕事・Y 遊び イ X 労働・Y 学業 ウ X 未来・Y 現在

エ X 努力・Y 懈惰 オ X 現実・Y 理想

問十二 本文の内容に一致するものを、次のア～オの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 親とは違う子どもなりの価値観が備わるようになつても、子どもである以上、親の責任がなくなるわけではない。

イ 子どもがどういう人生を送るかは、結局は子ども自身が決めることであつて、親が口出しすべきことではない。

ウ 親に理解されない孤独を子どもは感じることがあるが、その孤独感こそが大人に成長する不可欠の要素である。

エ 「ほめて育てる」教育方法は、自分の考えを押し付ける教育方法と同じく、子どもの成長を妨げるものである。

オ たとえ親に対して反抗的な態度をとつたとしても、それは子どもが健やかに成長している証と考へるべきである。

―― 次の1～5の（ ）にそれぞれ漢字を入れて四字熟語を完成させなさい。また、1～5の四字熟語の意味として最も適当なものを、後のア～オの中からそれぞれ一つずつ選んで、記号で答えなさい。

1 聖人（ ）子

2 （ ）和雷同

3 一（ ）一会

4 （ ）心暗鬼

5 天変地（ ）

ア 生涯に一度かぎりであると心得ること。

イ 地震や雷などの自然界で起ころる変わつた出来事。

ウ すぐれた教養と高い徳を備えた理想的な人物。

エ 自分にしつかりとした考えがなく、他人の言動にすぐ同調すること。

オ 物事が信じられず、あらぬ妄想にとらわれてしまうこと。

〔このページは白紙です〕

三 次の文章を読んで、後の問い合わせに答えなさい。

㊂ 武州に、境間近き程に、互ひに睦ぶ俗有りけり。一人は家貧しく、一人は豊かなりけり。さるままには、常に借物なんどしけり。
さて、共に死にて、かの一人の子の夢に見えけるは、亡父來りてよに物歎かしき氣色にて云ひけるは、「某殿の物をいくいくら借りて、返さざりし程に、家が近いので

あの世にて責めらるるが堪へがたきに、かの子息の許へ返すべし」と告ぐ。

夢さめて、親の時よりの後見に、事の子細を尋ねければ、①さる事侍りき。御夢に違はずと云ふ。さて、「不思議の事なり」とて、急ぎ員数の如く沙汰して、かの子息の許へ、「かかる子細侍れば、かの借物、沙汰しまゐらる」よし、②委く申し送りけり。
用意して

かの子息、返事に申しけるは、「この物、争か我が身に給ふべき。あの世にて、某が父、責め参らせん上に、また重ねて給ふべからず」とて返しけり。押私

し返し送りて云はく、「この世にて沙汰し参らせざらんにつきてこそ、あの世にて責められ参らせ候へ。親の歎きを休め、夢の告げを違へじと思ひ侍り。

③ まげて取らせ給へ」とて遣りけり。また云ひけるは、「親の事を重く思ひ、(a)いたはしく存ずる事は、誰も劣り参らすべからず。されば、あの世にて、親にこそ取らせたく思ひ候へ。こにて我が身に給はるべき様候はず」とて返しけり。

度々問答往復して、事ゆかざりければ、鎌倉に上りて対決しけり。⁽²⁾奉行人より始めて、⁽³⁾上にも下にも、聞きおよぶ類、⁽⁴⁾かかる珍しく哀れなる沙汰、未事が進まないので

だ聞かず。至孝の志、世間の理も、深くわきまへ存ずるにこそ」と、誉めののしりけり。心有る人は、涙を流してぞ感じける。

ほめたたえた

さて、件の物を以て、両人の亡父の菩提を弔ふべしと下知せられければ、国に下りて、二人、亡父の為に仏事を営みけり。まことに有り難かりける賢人命じられたので

なり。

『沙石集』による

㊂ 武州 …… 武藏の国。現在の東京都・埼玉県・神奈川県東部。
後見 …… 財産の管理を補佐する人。
対決 …… 当時の訴訟手続きの一つで、それぞれが自分のために弁明し合うこと。
奉行人 …… 裁判官の役割を担当する者。

問一 線部⑦・①の語句を現代仮名遣いに直して、ひらがなで答えなさい。

問二 線部(a)～(c)の語句の文中での意味として最も適当なものを、次のア～オの中からそれぞれ一つずつ選んで、記号で答えなさい。

(a) 遣りけり
ア 思いやつた
イ さしあげた
ウ 頼み込んだ
エ つかわした

(b) いたはしく存ずる
ア 苦痛に思う
イ 大切に思う
ウ 誇りに思う
オ 不憫に思う
エ 迷惑に思う

(c) 有り難かりける
ア ありがたくない
イ いそうでいない
ウ めったにいない
オ 感謝を忘れない
エ 現世にはいない

問三 線部①「さる事」とはどのようなことを指しますか。それを説明した次の文の

I
・
II

に当てはまる語句を、文中からそ

れぞれ二字で抜き出して答えなさい。

豊かな家の人から

I

をしたまま

II

ことができていないこと。

問四 線部②「委く申し送りけり」とありますが、それに対して「かの子息」が受け取らなかつた理由がわかる部分を、文中から三十字で抜き出し、始めと終わりの三字を答えなさい。

問五 線部③「まげて取らせ給へ」とありますが、この言葉からどのような心情が読み取れますか。その心情を説明した次の文の

に当てはまる語句を、それぞれ十五字以内の現代語で答えなさい。

I を嘆いている父のお告げに従つて、父に言われたものを、相手の息子に II という切実な思い。

問六 線部④「かかる珍しく哀れなる沙汰」とありますが、これはどのようなことを指していますか。その内容として最も適当なものを、次のア～オの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 貧しい家の息子が父親の亡くなつたあと裕福になり、借りた以上にお札をしたいと思っていること。

イ 豊かな家の息子が、貧しい家の息子に父親の代の貸し借りは帳消しにしようと申し出していること。

ウ 貧しい家の息子も豊かな家の息子も、亡父の生前の貸し借りにはこだわりをもっていないこと。

エ 豊かな家の亡父のあの世での態度を知つた息子が、貧しい家の息子にすまなく思つていてこと。

オ 豊かな家の息子も貧しい家の息子も、それに亡父を重んじて清算したいと考えていること。

問七 この文章には「か所」が抜けているところがあります。その部分を文中から四字で抜き出して答えなさい。

問八 この文章の主題を表している語句を、文中から四字で抜き出し、始めと終わりの三字を答えなさい。

問九 この作品は鎌倉時代に成立しましたが、鎌倉時代に成立した作品を、次のア～オの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 竹取物語 イ 源氏物語 ウ 平家物語 エ 枕草子 オ 土佐日記